

The Japanese Current Account: Why It Still Remains High

日本大学 宮澤 健介
東京大学大学院 山田 潤司

本稿では、1980 年以降の日本の経常収支に関する分析を行う。貯蓄率の低下は通常経常収支を下げる効果を持つが、1990 年初頭以降、貯蓄率が低下する中、日本の経常黒字は高い水準にあった。日本の貯蓄率の低下については、世代重複(Overlapping Generations: OLG) モデルを用いた先行研究において、高齢化や生産性の動向の影響であることが明らかにされているが、本稿では、日本の貯蓄率の低下と同時に、経常黒字を説明できるかを検証する。そのため、開放経済に拡張した OLG モデルを構築し、日本とその他の OECD 諸国及び中国の人口と生産性データを用い分析を行った。分析の結果、第一に、OLG モデルで貯蓄率の低下トレンドと経常黒字を再現できること、第二に、貯蓄率と同時に投資率も低下していたことが経常黒字につながったことが明らかになった。また、90 年代以降の日本の生産性が、日本の不況と中国の高成長により、その他の国々に比べ低迷したことが、投資率の低下と経常黒字につながったことが示された。